

AIDS UPDATE

No.23 2001.4.12

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線2941 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

広大病院は エイズのブロック拠点病院です

新しく本院で働いたり勉強したりする皆さん、こんにちわ。エイズ医療対策室は、厚生労働省が指定するエイズ治療のための中国四国ブロック拠点病院の役割を果たすために、院内措置として1998年にできました。室長は高田 昇(輸血部長、助教授)で、藤井輝久(輸血部助手)と一緒に、火曜日と木曜日に原医研内科で外来診療を担当しています。外来には新任で中田佳子(エイズ予防財団、看護婦)が着任しました。外来と病棟では喜花伸子(エイズ予防財団、臨床心理士)や小児科の西村 裕(エイズ予防財団、医師)が、そして輸血部の事務室では大江昌恵(エイズ予防財団、情報担当)が働いています。

広大病院にはエイズの診療経験をもったスタッフがいます。治療成績も国内トップの施設に比べて、ひけをとることはありません。このように"HIVに感染していても十分なケアとサービスを受けることができる"体制を整えています。HIV感染の可能性があるとされる患者さんには「エイズの検査を受けてみませんか？」と検査を勧め、了解を得た上で検査を提供して上げてください。リーフレットを準備しています。ご活用下さい。

広大病院 HIV感染者・エイズ患者は累計71人

2001年4月10日現在の広大病院の累計のHIV感染者数は、前回の報告から2人増えて71人になりました。死亡・帰国・進学・転居などによって、4月現在、本院で治療を受けている、あるいは経過観察中の総数は35人です。

Confronting HIV2001

製薬会社がスポンサーになったニュース誌です。内容では、熊本大学第二内科の満屋裕明先生による、「HIV感染症治療の手引き」が紹介されています。アメリカのガイドラインが半年で書き変わっている現状で、日本のドクターたちが「今はこれがいい！」と推薦できる治療法が紹介されています。ウェブもあります。

<http://www.hivjp.org/>

シンポジウム 「エイズと包括的ケア」

3月27日に開催したシンポジウムでは、広島市民病院のソーシャルワーカーの塚本さん、東京からHIV/AIDS看護研究会の堀さん、そして堀さんのお友だちである女性の感染者の方に来て頂いてお話をして頂きました。あらためて医療提供だけでなく生活を支えていくという視点が必要であることがわかりました。春休み中で参加者数は50名程度でしたが、参加して下さった方たちの中に、ソーシャルワーカーを待望する気持ちが高まっていると感じました。



< ご意見募集 >

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。 [TAKATA, OE]
takata@aid-chushi.or.jp